

悟空 誕生の巻

第1幕 滝の前～水簾洞

ナレーター：むかしむかし、大むかし、海の中に花果山という美しい島があった。
その島の頂上に一つの大きな岩があった。ある日その岩がとつぜんはれつして中から一つの石のたまごが生まれた。
そのたまごが やがてかえって、一匹の石ザルが生まれた。

幕開く 全員 歌：オープニング テーマ

サル1：やあ、サル公、エテ公、モンキー、じいさん、ばあさん、おぼっちゃんにおじょうちゃん、
おっかさんにおとつあん。かねてから話していたとおり、今日はいよいよ王様猿を選ぶ日だ。

サル全：オー

サル2：この滝にとびこんで中がどうなっているか見とどけ、無事もどってきた者をわれわれの王様にしよう。

サル全：オー

サル3：われわれの世界では勇気が絶対だ。だれか挑戦するやつはいないか？

サル4：だれか だれかいないか？

サル5：だれか いないか？

サル6：だれか いないか？

...おたがい顔を見合わせるが、だれもない。

サル1：なさけない やつらばかりだな。

サル7：じゃあ あなたは どうなんですか？

サル全：どうなんですか？

サル8：おい、いい考えがある。あいつをからかってやろうぜ。

サル全：なんだ なんだ。

サル8：あいつを滝の中に投げこんでやるんだ。

サル9：そいつは、いい考えだ。よし みんなでほうりこんでやろうぜ。

サル10：それは おもしれえ。

サル全：おもしれえ。

...石ザルひっぱり出される。いやがっている。

石ザル：いやだ、だめだ。ぼくは石ザルだからしずんじやうよ。

サル11：どいた どいた。王様候補者のお通りだ。

サル12：イキのいい候補者のお通りだ。どいた どいた。

石ザル：いやだよ！　こわいよ！

サル　：めったに見られないダイビングだ。

石ザル：よーし　こうなったら自分からとびこむからはなせよ。

サル　：いやだよーだ。

サルたち：そーれ

...ドボン！　ウワッー！　　間

サル　：だいじょうぶかしら

サル　：だいじょうぶなはずないよ。

サル　：ちょっとやりすぎたかな。

サル　：ひどいわよ　あなたたち。

サル　：まだ出てこないよ。

サル　：かわいそうだわ。

サル　：ひどいわ。

サル　：生きてはもどれねえぜ。

サル　：そうだな。

サルたち：こわいわ。...口々に言う。　石猿もどってくる。

サル全：うわあ。　...腰ぬかす

石ザル：オーイ　みんなすげえぞ。

サル　：どうだった？

サル　：何かあったの。

石ザル：水なんかいないんだよ。それどころか鉄の橋が一本かかっている、その向こうは立派なお城があるんだ。

サル全：お城だって？

石ザル：そう　すばらしい城だ。中には　すべり台まであるんだ。わかるっかなー？

サル　：すべり台？　わかったサルスベリでしょう。

石ザル：あたり。それからキノコのイスもある。

サル　：キノコのイス？　わかった、サルノコシカケ。

石ザル：あたり。

サル　：ハッハッハッハッハッ。まるでおれたちサル族のためのお城じゃねえか。

石ザル：ねどこ、かまど、なべ、かま、おわん、おさら、みーんなそろっているんだ。

　　入り口には　花果山水簾洞と書いてあった。

サル全：花果山水簾洞？

石ザル：夜露や雨にぬれる心配はないし、広さだって、そうだなあ...千匹以上らくに住めるだろう。

サル　：千匹も！　すっごーい、夢みたい！

石ザル：そう！まるでおれたちが 来るのをまっているみたいだぜ。

サル全：本当か。

サル：そいつは ありがたい。

サル1：案内してくれよ。

石ザル：いいとも おれについて来いよ。

サルたち：オオー 行こう 行こう。

...滝の中へ まずは大胆なサルから やがて全員とびこむ。

水簾洞

サルたちは、大はしゃぎ。おわんを引っ張りあうやら ねどこをとりあげるやら。

石ザル：どうだ おれの言ったとおりだろう。

サルあ：言った以上だよ。ナッ。

サルい：すげえよ。

サルう：すてき！

サルえ：一生こまらないぜ。

サルお：こりゃあ、極楽だ。

石ザル：おいおい みんな さっきの約束は どうなったんだ。滝にとびこんで無事にもどってきたら...

サルか：えっ？ あっそうだったけね。

サルき：うれしくてすっかりわすれてた。その上 みんなが楽しくらせる場所まで見つけてくれたんだ。とうぜん われらの王様だ。

サル：さあ、サル公。

サル全：ハイ

サル：エテ公。

サル全：オー

サル：モンキー

サル全：ヨー

サル：じいさん

サル全：ハイヨ

サル：ばあさん

サル全：はいはい

サル：おぼっちゃん、おじょうちゃん、おっかさんに おとつあん

サル全：ハハイのハイ

サル : これより石ザルは われわれの王様だ。みんな異議はないか。
サル全 : 賛成、異議なし
サル : よし これで われわれの王様が決まったぞ。
サルく : でも王様、王様になるには、王様らしい名前がいますよ。
サルけ : 石ザルじゃ おかしいわ。頭がかたいので岩石王ではどうお？
石ザル : いやだね。品がないよ。おれのこの体を見て言ってくれ。
サルこ : じゃあ 短足王は？
石ザル : ますます ひどいよ。
サルさ : たくましく美しいサルっていうのは どうかしら。
石ザル : うん、いいね。おれは もう弱虫じゃない。それに美しい。
サルし : 美しいサルの王、つまり美猴王はどうでしょう。
石ザル : 美猴王？ 悪かあないねえ。
サル : うん、なかなかいい名前だ。
サル全 : いい名前だ。
石ザル : みんな、今から おれは美猴王だぞ。
サル : これ で われらの王様、美猴王の誕生だ。みんなで歌って踊って祝おうじゃないか
サル全 : 王様バンザァーイ、バンザァーイ 美猴王バンザァーイ

おどり 歌 : 美猴王 誕生の歌

...宮殿風に

サルい : 王様、こんなに くだ物がとれました。
サルろ : ノミを 取って 毛づくろいをいたしましょう。
サルは : 肩を おもみいたしましょう。
美猴王 : よき暮らし、よき棲み家よ。この上は長生きして、いつまでも幸せにいたいものだ。しかし、
こんな楽しい暮らしがなくなってしまう日が いつかは来るんだ。いつかは年をとって死んでしまうんだ。
そしてエンマの前に引き立てられていく。ああ、死ぬのがこわい。イヤだ、イヤだ、イヤだ、イヤだ。
サルに : 美猴王様、死なない者がいます。
美猴王 : なに！ 死なない者がいる？
サルほ : はい、仏と仙人と聖人は、絶対に死にません。
美猴王 : その連中は どこにいる？

サルへ：人間世界の奥深い山の中にいるそうです。

美猴王：よし、これからそれらの人々に会って、いつまでも年をとらずに生きている不老不死の術を学んでこよう。

サル：で、いつお立ちですか？

美猴王：善は急げだ。今から出発する。海のはて、空のはてまでもさがしつくして必ず見つけてくる。いかだの用意をしてくれ。

サル：オオー（2人 いかだ 用意する）

サル：ぶどうと柿をとってこよう。

サル：わたしたちは、ごちそうの準備をしましょう。

サル：さあ、急いで。盛大な宴会を開いて王様をお送りいたしましょう。

サル：オー

...幕 笑い声が聞こえる やがて 静かになる。

波の音

幕の前を美猴王が いかだをこいでいく

第2幕 仙人の山

...鳥の声。 幕ひらく。山は青々としている。仙人と弟子が術の練習をしている。

仙人：これ、弟子ども、わしのする事をよく見て おぼえるんじゃ。よいか。

弟子たち：はい。

仙人：まず 雲に乗る術。エイ。ウワッ。イテテテテッ。（雲から落ちる）

弟子1：あっ 雲をつきぬけちゃったよ。先生だいじょうぶですか？

仙人：ウム。うすい雲に乗るとこうなる。よく選んで乗るように。もう一度やるからよく見てなさい。 ...もう一度やりはじめる。

弟子2：だいじょうぶかな？

弟子3：見ちゃいられないよ。あっ あぶない。（仙人：ウワッー。 感電する。）

弟子4：先生、だいじょうぶですか？ 気がついたみたいだ。

仙人：イテテテテテ。かみなり雲に乗るとこうなるから気をつけるように。

...弟子たち うなずく。そこに美猴王が あらわれる。

美猴王：こんにちは。弟子になりたいくてやって来ました。

弟子5：なんだサルか。サルが弟子になりたいんだって？

弟子6：お前のおしりは、真っ赤だろう。えー帰れ帰れ！

美猴王：（ひざまづいて）どうか、お願いします。仙人になりたいくて修行にきました。

仙人：やめた方がよい。元来サルは、仙人になれないのだから。（ちかづいて）

で、おまえは どこから来たのじゃ。

美猴王：傲来国の花果山 水簾洞です。

仙人：うそを言うな。傲来国は、二つの海を渡らねばならぬ。そんなうそつきを弟子にするわけにはいかぬ。帰れ！

美猴王：いいえ うそではありません。いかだに乗って海をこえ、十何年かかって
ようやく たどりついたので。

仙人：ほほう そうか。で、お前の名前は？

美猴王：美猴王だ。

仙人：何 王だと。王などというくだらないものに用はない。帰れ帰れ。

美猴王：おれには 名前をつけてくれる親なんか いなかったんだ！

仙人：ほほう それは聞きづてならぬな。では木からでも生まれたとでもいうのか。

美猴王：いえ、木ではなく 石からです。花果山の頂上にあった石からです。

仙人：そうか。ではお前は、天地が生んだようなもんだな。ようし、お前を弟子にしてやろう。

名前は、孫悟空だ。空を悟るだ、どうじゃ、いい名だろう。

孫悟空：孫悟空？ サンカクー、シカクー、キンカクー、ギンカクー、ミルクー、
ソングクー、いいものばかりだ。気に入った。ありがとう。

仙人：しっかり修行にはげめよ。

孫悟空：はい！

...仙人堂々と去る。弟子たちと修行がはじまる。

そうじ、水くみ、お経、術のけいこ

歌：孫悟空のうた

などをしている。 →暗転

孫悟空：お師匠様 およびですか？

仙人：お前がここで修行してから7年になる。お前の熱心さにめんじて これをと
らす仙術のトラの巻きじゃ。天地陰陽 72 通りの術が使える。だが術は むやみと人に見せる
ものではないぞ。

孫悟空：はい。

仙人：決して世の中をさわがせたり、人をこまらせたり、生きているものの命をう
ばったりすることに使ってはならん。その身は いつも心おだやかに 笑顔をわすれぬよ
うに。

孫悟空：どうすれば心をおだやかにしていただけるのですか？

仙人：それは自分で考えることじゃ。悟空、お前は すぐカーツとなるから気をつけなさい。

孫悟空：はい。

仙人：ところで悟空、修行はどうだったかな？

孫悟空：はい、お師匠様のおかげで 雲をおこし、飛ぶこともできます。きん斗雲の術で

十万八千里どこへ行くのも自由自在になりました。

仙人：よしよし。わしが教えられることのすべてを教えた。行け。孫悟空！ お前のふるさと水簾洞へ。

...弟子たちもあらわれる。

孫悟空：はい 教えは、決してわすれません。

仙人：さらばじゃ、悟空。

孫悟空：お師匠様、お達者で！ ...弟子たちも別れをおしむ。

歌：きん斗雲の歌

第3幕 水簾洞

混世魔王から サルたちが にげまどっている。

孫悟空：どうしたんだ このざまは。

サルA：大王、どんなに待ったかしのねえ。おれたちは、ひどい目にあっているんだ。

サルB：妖怪が 出てきて、おれたちの子どもをかたっぱしから うばっていくんだ。

...サルたち 口々に「わたしの子も」

サルC：大王の帰りが、もう一足おそかったら、おれたちの世界はメチャクチャだ。

孫悟空：待て待て、おれは もう王じゃない。

サルD：王じゃない？

孫悟空：そうだ。仙人に孫悟空という名をいただいたんだ。(いぼった風に)

サルたち：孫悟空！

孫悟空：どうだ いい名前だろう。ところで一体どんな妖怪だ？

サルE：混世魔王と言って、北の方にすんでいます。

...魔王 登場

混世魔王：おーい。いるか、いるか。いないか、いるか。いる いる いるか。

また来た魔王だ。混世魔王様のおでした。

サルたち：キャー (にげる)

孫悟空：まて。おれは、この水簾洞のあるじだが、お前が混世何とかという妖怪か。

うばった子どもたちを残らず返してもらおう。

混世魔王：ワッハッハッハッハッ。サルにくせに このおれさまに刃向かおうっていうのか！

孫悟空：だまれ！

混世魔王：何を、生意気な。やろうども かかれ！（手下 何人か かかる）

孫悟空：しかたない。分身の術だ。かわれ！

...分身のサルたちと魔王たちのたたかい。

孫悟空：どうだ。まいったか！

混世魔王：こうさん、こうさん。まいりました。どうか命ばかりは お助けを。子どもた

ちは そっくりそのまま お返しいたします。

孫悟空：よし、わかった。おれも殺生は したくない。分身ども もどれ。

...みんな退場。かわって子どもたちが帰ってくる。

サルF：子どもたちが、もどってきました。

孫悟空：みんな無事でよかった。

サル：われらの大将 孫悟空 ばんざーい。

サル全：ばんざーい ばんざーい

サル：しかし 大将 油断は禁物です。またいつ どんな敵がせめて来るかもしれません。

孫悟空：ウーム

サル：そうなるとう武器が必要です。東海の竜宮にはとっておきの武器があるはずですよ。

孫悟空：そうか、それじゃ ちょっくら竜王の所へ行行って 武器をもらってこよう。

サル：それでこそ われらが大将 孫悟空。

孫悟空：閉水の術。エイ ...とびこむ。みんな感心して 見ている。

...幕

東海の竜宮

孫悟空：花果山は水簾洞の孫悟空だ。武器をもらいに来た。

竜王：なにを出しぬけに！

孫悟空：おれの城を守るんだ。だがあいにく武器がない。ここには めずらしい武器がたくさんあると聞いて来た。ここをあけてくれ。

幕があく。竜王と家来3人がいる。

竜王：しかたがない。かたなを持ってきてくれ。

家来1：ははっ。...刀を持って来る。

孫悟空：(ふりまわして) こんなもんじゃ、お話しにもならない。

竜王：では九こしやを。

家来2：ははっ。

孫悟空：これも軽くてだめ。

竜王：えっ！それでは この竜宮で一番重い方天戟を。

家来3：ははっ。

孫悟空：まだまだ軽い。ものの役には立たねえよ。

竜王：もう これ以上のものは ありません。

家来：王様 海倉にある鉄の棒は いかがでしょう。

竜王：しかし あれは武器ではない。

孫悟空：なんだ、なんだ。とにかくそれを見せろ。

竜王：わかりました。それでは 竜宮の海倉へ。

...中幕 あく

孫悟空：おー これが海倉か。(鉄の棒に走りよって) すごい！

びくともしない。ちょっとぐらい動けばいいのに.....おお動いた

もうちょっと小さくなればいいのに。.....おお小さくなった。なんと如意棒 意のままになるってことか！もうちょっと小さくなれ！

こ、こいつは便利な武器だ。おい、この如意棒 確かにこの悟空様がいただいた。

竜王：悟空殿、どうかそれだけは おやめください。

孫悟空：ならぬ ならぬ。それから この棒にふさわしい よろいと かぶとを出してくれ。

竜王：そんな！

孫悟空：出さぬというのか？ (武器をもって おどかす)

...竜王 家来に命じて持ってこらす。 孫悟空 よろい、かぶとをする。

孫悟空：これさえ あれば おれは天下無敵の孫悟空だ。これで おれ様にかなう者は一人もいなくなったぞ。ワッハッハッハッハッ。

...行ってしまふ。

竜王：うー おのれ！かくなる上は、天上界にのぼり、玉帝様にお願いして決着をつけてもらうからな！

歌：孫悟空のうた ...幕

ナレーター：こうして水簾洞に帰った孫悟空は、武器を持って大あばれ、えん魔大王ともたたかい、

自分を斉天大聖(せいてんたいせい)と名のり、天上界に行って いたずらもして、仙人の教えをすっかりわすれてしまいました。そしてとうとう 天上界からつかわした二郎真君にとらえ

られ、天上界につれてこられました。そこには、お釈迦様がいたのです。

第4幕 如来と悟空

悟空：やい、お前は どのぼうずだ。なんの用だ。

如来：わしは 西方(さいほう)極楽世界の釈迦如来じゃよ。悟空 どうして お前はどのように乱暴するのじゃ。

悟空：おれはな もうせまい下界にすみあきたから、ひとつ天上界をうばって、ここの大將におさまることにしたんだ。世の中は 強い者の勝ちだからな。

如来：ほう お前は そんなに強いのか？

悟空：そうよ。おれさまに勝てるやつなんか誰もいやしねえやい。天宮が、おれのものになるまで 手をひかない からな。

如来：そうか そうか。では このわしと一つかけをしよう。わしの手の平にのってそこからとびだすことができた ら、お前の勝ちとして、わしから玉帝に申し入れして、天宮をお前にゆずっていただくことにしよう。

悟空：何 天宮をくれるのか。よし、お前さんの言うとおりに、かけをしよう。

如来：だが、お前が 手の平から ぬけだせなかったら、もう一度 下界におりて修行してくるのだよ。

悟空：あーわかった。わかった。

如来：よーし ではまいれ。...手を広げる。その上に悟空のる。

悟空：さあ いくぞ。 ...とんでいく。如来、手の平を見て、やがていなくなる。

...悟空 あらわれる。5本の柱が雲の中にそびえたっている。

悟空：ははあ。ここが世界のはてにちがいない。このかけ おれの勝ち！（ニヤッと）

しかし まてまて。あとで もんくをつけられないように しょうこ をのこしておこう。

...悟空は一本の毛をぬきとり、かわれと言って、ふでにかえ、
齊天大聖ここにいたる と書く。とんでもどってくる。

悟空：やーい。どうだ。お前の手の平どころか、宇宙のはてまで行ってきたぞ。

如来：いや、お前は まだ私の手の平から外に出ていない。

悟空：なんだとー。おれは 天のはてまで行って、柱に自分の名前を書いてきたんだ。うそだと思ふなら いっしょ に行ってみよう。

如来：行くには およばぬ。さあ これを見よ。

悟空：せいてんたいせい ここにいたる。そんなばかな！

...ごう音とともに悟空 岩にとじこめられる。

悟空：出せ！ 出せ！

如来：これ悟空。世界は お前が考えているより ずっと広い。この宇宙は広大無辺。天も地もとるにたりない小さいもの。

悟空：うるさい！天と地が小さいだと、でたらめを言うな。

如来：これから五百年の間 お前をこの五行山のどうくつに とじこめることにする。

悟空：おい 待て！ そんなのやめてくれ！

如来：その間によーく考えてみるのだ。お前が今まで どのように生きてきたのか、そしてこれから どのように 生きていくのが本当なのか。心静かに考える がよい。

そうすれば やがてお前を助けてくれる人が あら われるだろう。その人の名は、三蔵法師。お前はその人の弟子になり、よくつかえるように。

悟空：あつ待て！ 如来、観音、お釈迦、おれを一人にするな。どこへ行く。

おれを一人にするな！

...如来 去る。暗転

テープ：おれは やっぱり あばれすぎたかもしれないな。天上界をうばって大将になるなんて、ばかげたことだ よ。水簾洞のやつらはどうしたかな？この宇宙からみれば天も地も小さい。だが われわれはここで生き ているのだ世界って何だ？生きるってどういうことだ！ お釈迦 教えてくれ！

...風の音 舞台 明るくなる。

三蔵法師 登場する。

悟空：お坊さま、お坊さま。

三蔵：どうした、何か用か？

悟空：お坊さまは、三蔵法師っていう名前ではありませんか？

三蔵：いかにも。私は、唐の国の玄じょう三蔵。

悟空：助かった！あなたが ここを通るのを五百年間 待っていたんですよ。この岩から出してください。

三蔵：こんな所に閉じこめられているのは、きっと何か深いわけがあるのだろう。

しかし、出してくれと言われても どのようにすればよいのか？

悟空：そこに張ってあるお札をはがせばいいんです。

三蔵：これか。如来様、もし私が、この猿を助けてもよいのなら、このお札をはがさせたまえ。

...ごう音とともに お札がとび、岩がくずれる。

悟空：お坊さま、ありがとうございます。私は、孫悟空と言います。お師匠様をお待ちしておりました。どうか私をあ なたの弟子にしてください。

三蔵：うむ、よかろう。私も一人で実は少々心ぼそかったのじゃ。

悟空：一人で どこへ行くつもりだったのですか？

三蔵：観音様のお告げをうけて、天竺まで お経をいただきに行く途中なのだ。

悟空：天竺なんて まだまだずっーと先ですよ。

三蔵：わかっておる。そうだ 観音様から最初に弟子になった者にかぶせるようにとこの金の輪をいただいてき た。さあ、こちらへ。

悟空：はい。へんなヘアーバンドだなあ。

三蔵：これは そなたが道はずれた行いをした時のいましめのためとのこと。

悟空：また、よけいなおせっかいをして... だいたいあの人は...

三蔵：オウ、ショウ、ヨウ、ジュウ...

悟空：いたい、いたい。こんなものいらぬよ。

三蔵：オウ、ショウ、ヨウ、ジュウ...

悟空：あついたたたたた。

三蔵：これは そなたが立派な弟子になるよう観音様のおはからいじゃ。

悟空：ああ痛かった。わかった、わかりましたよ。お師匠様が天竺まで無事にお着きになりますよう、しっかりおと もします。

三蔵：そうか、では悟空 出発じゃ！

悟空：はい！

悟空と三蔵法師 まん中にしてサルたちでてくる。

ナレーター：このお話は ひとまず これで終わります。悟空と三蔵法師は やがて八戒や悟浄と出会い、旅をつ づけいろいろな出来事にあいます。そして天竺に着き 無事に帰ることができました。

わたしたちは 今 悟空のように旅立ちのところにいます。これから ど のような旅になるのか とても 楽しみです。

全員合唱：旅立ちのうた